

新見正路日記

十一月五日 乙卯 快晴

- 例刻登城
- 今日は不被為召候旨仰出
- 四時御供揃二而
- 右大將様御本丸江被為入
- 明六日四時分御供揃二而吹上御通り被為成、於御花壇馬場、仙台馬上覽被仰出書付、与次郎差出二而御馬掛り撰津守江相達又
- 明日同人に被出處、西丸江被通、御道具初日二而御用有之候間、主膳正江被願之段被申聞、五半時江二寸前、附人二而登城之掛合有之
- 西ヶ原村百姓次市兵衛女房江昨日被下物有之、猶又同人平常之様子調書
- 村役人差出候分二而左衛門差出二而被入御覽候様相達、則入御覽候處、自分江渡候様被仰付候段申聞候間、預り置
- 昨日之御礼大炊頭殿被申聞
- 姫君様御道具上覽有之、御表御座敷向奥へ相成
- 而御所様被為入御覽有之、一同
- 太公替江出居、御供いたし致拜見、今日は

御白書院迄二而大廊下江は不差出御覽相済入御

御二度同後、表御座敷向大御締

相成候二付、御用部屋向退出、九半時頃相済

矢部駿河守組与力同心、不正之取計

有之哉二付、遠山左衛門尉吟味被

仰出、越前守殿より被申渡、立合御目付

鳥居鳥居耀被仰付

於新部屋、左衛門尉江大和守殿より

心得方教諭被致、其跡二而自分より

も猶又申含候

今日退出八半時江一寸前

十一月六日 丙辰 陰晴夜中雨

昨日被仰出候通、四時御供揃二而吹上御庭江

被為成、於御花壇馬場、仙台馬

上覽二付、五時頃出宅登城、御時計

五時三寸廻り

御目見被仰付候間、一昨日大炊頭殿之

御礼申上、且左衛門尉江御下ヶ之書付、入

御覽、西丸御馬御買上ヶ之上、乗込之

者江引渡方等之儀等、播磨守心得候様

可致哉之段、伺候処、伺之通被仰出
大岡主膳正、五半時江二寸前、附人二而にて登城

馬喰帳、因幡守より請取

御場所宜段申来候旨、伊豆守申聞候

若年寄御先江遣候様同人申聞

主膳正江相達、直に被相越

御供下二而御通口江相廻り

御成之節、御跡附二而罷越又

右大将様吹上御門通り、御先江被為

成、御馬見所前江御出迎

御対顔

両御所様御覽所江御着座、直二

相始候

惣馬数三拾六疋之内、七口青病氣二而

不罷出、七口有之、二口五疋有之

二疋御覽留り、五疋吟味買上ケ

右大将様、御覽留り一疋、吟味御買上ケ

一疋、都合九疋御買上相成候事

相濟而、両御丸若年寄例之場所二而

御目見、御意等有之、直二

還御

右大将様にも元の御道筋還御

御成

還御
西丸江对馬守被罷出

昨日井関縫殿頭差出候京都江召連候
者姓名書付、伊勢守江相達又t

右大将様御太鼓櫓下通御之節

御太鼓留にて打不申候処、已来無構

打候様被相達候様、弾正小弼江相

達
曲木又六郎江達之義有之候間、四時頃

出居候様主水正江相達又

御使二而致し通御用相始ル

姫君様江献上御障子屏風一双出来

於笹之間致見分、御披露主水正江

相頼候所、梅田方を以、奥江相廻し

候処、御披露相濟、御満足之旨申出

之段、主水正申聞候

東明宮御方御土産、紅白紗綾

二巻被下候旨、林田方二被申聞候旨

丹後守被申聞、致頂戴

今日一同退出七時三寸廻り

今日重陽之御内書渡り有之

十一月七日 丁巳 陰晴

例刻登城

備中守殿被召出、御用

相濟而、遠山左衛門尉被召出、御用

有之、相濟而入御

昨日達書之通、又六郎罷出居候段